
届かぬ手紙～ミカとユイの物語り～

真実

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

届かぬ手紙〜ミカとユイの物語り〜

【Nコード】

N8065A

【作者名】

真実

【あらすじ】

あんなに仲の良かった2人を引き裂いた運命…自分を立ち直らせるのは手紙だった…

くプロローグく

『ミカと出会って、もう3年経つんだね…』

「入学式の時、席が隣でそれからだよね…」

『毎日遅刻して、毎日怒られて…笑』

「毎日楽しかったのになあ…早かったあ、もう卒業だもん…」

『まあこれから一緒にいるだろうけどね。笑』

「ユイとは高校も一緒だし、今までと変わらないよね…」

中学

校の卒業の日、私達は、中学校生活の半分を過ごしたであろういつもの公園に来ていつものブランコに乗っていた…

片手には卒業証書、もう片手には3年間使い続けたスクールバック…

3年間の毎日を私はミカと過ごした…

2

しかしそんなミカと突然の別れがくるな

んて……

春には新しい制服を着て、一緒に登校するはずだった……

く別れく

私はただひたすら走った。ミカの元へ…

……ピッピッピ………

『ミカ!!』

勢いよくドアを空ける。恐る恐る近づくと、泣き崩れている人達の真ん中には、

もう目を覚ます事のない…

変わり果てたミカがいた……

へたった今だったのよ……

ミカのお母さんがハンカチで目を押さえながら話してくれた……

へこ

れからユイちゃんのプレゼント買ってくるんだあ。って楽しそうに家を出ていったの……でもね、行く途中バイクに跳ねられて……
……バイクの信号無視だったんですって……バイクの人は意識を取り戻したらしいけど……ミカはすぐ緊急治療室に運ばれたけど……

私はただ動かなくなってしまったミカを見つめていた……

なんでだろう……涙が出ないのは……悲し

いはずなのに……

気付いた時に

は、病院内を走り抜け、あの公園へ向かっていた……

もうミカが隣にいないと分かっている、現実を認めたくない自分がある……公園に着いた私は、いつものブランコへ行き、いつも通り2つのブランコの左側に座った。

右側はいつもミカが座っていた場所だ……今隣には動いていないブランコがあった……

一人になった私は今までのミカの笑顔、泣き顔、怒った顔……一かと思ひ出していた……ミカが最後に言った言葉……何だっただろう……

「ユイ、今何か欲しい物ある??」

『何??突然。』

「もうすぐユイの誕生日だし。何かないかなああって……」

『何にもいらないよ。それよりどっか遊びに行きたい!! 次の日入学式だし』

「あっじゃあ、入学祝いもかねてユイの誕生日に2人で遊びに行こう。」

『そうしよう!! 楽しみだねえ…』

「ホント楽しみ!! 高校生になる前の思い出だねえ…」

思い出かあ……………そんな話をした記憶しかないや……………
最後……………

『じゃユイ今度ね!! 楽しみにしてて…』

帰り際言われた言葉…『…………今度ね!!…………』今度かあ…

『楽しみにしてて…』この言葉の意味…………

ミカはプレゼントを用意してビックリさせようとしてたのかなあ…

プレゼントなんかいらないのに……………プレゼントを買いに行かないか、あんな事には……………

目から一粒の涙が落ちた…

二粒…………三粒……………両目から溢れ出る涙…

気付いたら大声で泣いていた。「何で先に逝くんだよ…早過ぎるよ…約束したじゃん…これからもういっ

ばい笑いたかった…何で一人で逝っちゃうの……ミカの馬鹿!! 嘘つき!! ……………」

ただ空に叫んでいた…

〈決意〉

ミカの死から数日が経ったが、まだ死を受け止められていなかった…

ミカ

と一緒にいくはずだった高校では何人か友達が出来たけど、ミカ以上に親しくなる人はいなかった…

親しくなれなかった……毎日が楽しくなかった……どうしてもミカのいた毎日とない毎日で比べてしまう…

5

ミカに会いたい…

一度死も考えた…けど、ミカはどう思う?? ミカ的事だから泣きながら怒ってくるだろう…ミカを悲しませたくはない。。。

だけど…限界…

話し

たい事がいっぱいあった。言いたい事もいっぱいあった…突然の別れで引き裂かれた運命……

机に向かった。の上には入学式の時ミカに手紙を書こうと書きかけの紙があった…

気付いたら新たに手紙を書いていた…

【d e a r ミカ

元気にしてる?? 突然いな

くなるのは悲し過ぎるよ…

私ねミカのところに逝く事も考えたよ。でも、そんな事したらミカ怒るよね…
だからね、

決めたの。ミカの方まで最後まで生きるって…

もし生きてたら高校でもバカばかりやって、毎日怒られてるかもしれないね。ミカなら高校で彼氏出来てたかもね。

彼氏欲しいってずーと言ってたし…笑 もしかしたら部活にも入ってたかもしれない。長くは続かなそうだけど…笑 この先どんな人生が待ってるのか分からないけど…

ミカの事は

絶対に忘れない!!

親くなる友達が出来て楽しく過ごしてるかもしれないけど…ミカが1番だもん。ミカは私にとって空よりも大きな存在だった…

こんな手紙書いて、返事が来ないのは分かってる…でもミカに伝えたい事があったの。直接言えないのは残念だけど、手紙のほうが素で書けそう。笑

ミカには本当に迷惑かけたし、感謝の気持ちでいっぱいです。これからもバカばかりやってる私を見ててね…呆れてるミカの顔が想像出来るよ…笑

さよ

ならじゃないよね、また会うんだもん。何十年先になるかもしれない。でもその時まで待って。あの時のミカのままでいてね…バカでどうしようもない子で、優しくて友達思いのミカのままで…

これから

再スタートだよ。。ミカ、見てて!!

f r o m ユイ】

私は手紙を持ち公園へ向かった。そしてあのブランコの近くの桜の木に埋めた…

返ってこない返事を待って…

「ミカのバあか!!笑」

雲一

つない空に叫んだ…

ミカは笑ってるだろう…

手紙を書いて吹っ切れた…

私は新たに歩き出した…

ミカのいない世界で…

（ E N D ）

（後書き）

初の小説なので、おかしい所だらけだと思いますが…読んでもらえて嬉しいデス！！感想待ってます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8065a/>

届かぬ手紙～ミカとユイの物語り～

2011年1月6日02時34分発行